

令和3年度 滝川市道徳教育推進事業 実践報告書

「自分のよりよい生き方についての 考えを深める道徳科」

～主体的・協働的な学習を通して～



滝川市教育委員会

滝川市道徳教育研究会議

発 刊 に あ た っ て

本年度も新型コロナウイルス感染症の収束が見通せない中、ソーシャルディスタンスやマスクの着用、消毒の徹底などの感染症対策を講じながら、様々な教育活動の充実に努められていることに感謝申し上げます。

さて、「特別の教科 道徳」がスタートし、数年が経とうとしています。各学校においては、日々、道徳の時間の充実に向け、質の高い多様な指導方法等を取り入れる等、研究に取り組んでいることと思います。

本市においては、子どもたちの豊かな心の育成を図るため、平成19年度から2年間は文部科学省の指定を受け、平成21年度からは、市独自に「道徳教育推進事業」を立ち上げて実践的な研究を推進してきたところです。

本年度からは、これまでの研究成果を引き続き「深める、広げる」とともに本市の道徳教育の一層の充実を図るため、5か年計画で、道徳教育の要となる「道徳科の授業」に係る実践研究を推進してまいりました。本年度は、5か年研究の1年次となり、2名の先生方による授業実践を通して、特に「道徳的価値を自分ごととして主体的に思考することを促す発問」や「子どもの自己評価と教師による評価」について深めることができました。

本報告書には、研究主題に基づいた研究理論・授業実践等、研究の取組の成果が掲載されております。各学校において本書が有効に活用され、子どもたちに、自分のよりよい生き方についての考えを深め、主体的に行動しようとする心が一層醸成されることを願っております。

終わりになりますが、本研究事業の推進にあたり、ご協力いただきました研究員の先生方、関係各位に心からお礼を申しあげ、発刊にあたってのご挨拶といたします。

令和 4 年 3 月

滝川市教育委員会教育長 田 中 嘉 樹

目 次

発刊にあたって

第1章 研究概要

I. 研究主題及び主題設定の理由	2
II. 目指す子ども像	
III. 研究仮説	
IV. 研究内容	
V. 研究の全体構造図	3
VI. 事業及び研究の進め方	4
VII. 研究推進の経過	5
VIII. 令和3年度 滝川市道徳教育研究会議 名簿	

第2章 研究理論

I. 道徳科授業の質の向上	7
II. 道徳科における評価の在り方	11
III. 保護者や地域の人材（教材）を活用した指導	14

第3章 令和3年度授業実践

・滝川市立西小学校 新谷駿介 教諭	17
・滝川市立明苑中学校 高橋悠希 教諭	21
・各授業実践の反省 ～各研究協議より～	26

第4章 成果と課題

・令和3年度 滝川市道徳教育推進事業 研究の成果と課題	31
-----------------------------	----

参考・引用文献	36
---------	----

研究概要

I 研究主題及び主題設定の理由

1 研究主題

「自分のよりよい生き方についての考えを深める道徳科」 ～主体的・協働的な学習を通して～

2 研究主題設定の理由

グローバル化や情報化の進展など様々な要因により大きく変化し続ける現代社会において、個人や社会の多様性を尊重しつつ、幅広い知識・教養と柔軟な思考力に基づいて新しい価値を創造したり、他者と協働したりする力が求められている。

とりわけ、道徳科においては、主体的・協働的な学習の中で、多様な道徳的価値観に触れ、異なる考えや道徳的価値観を肯定的に受け入れ、自分の考えを更新し、自分のよりよい生き方を見つめていくことが求められる。

その具現化のためには、「心情理解にとどまったり、わかり切ったことを考えたりする授業」から「自己のよりよい生き方についての考えを深める授業」、つまり「考え、議論する道徳」への転換が重要となってくる。

そこで、本研究では、研究主題を「自分のよりよい生き方についての考えを深める道徳科」と設定し、児童生徒が道徳的価値を自分ごととして考え、他者と議論することを通して自分のよりよい生き方についての考えを深めていくことができる道徳科を研究することとした。

II 目指す子ども像

本研究では、児童生徒に、道徳的価値の理解を自分との関わりで問い直し、多面的・多角的に考え、よりよい生き方について考えを深めようとする見方・考え方を育成する観点から、目指す子ども像を、

「自分のよりよい生き方についての考えを深め、主体的に行動しようとする子ども」

と設定する。

III 研究仮説

上記の「目指す子ども像」を踏まえ、研究仮説を次のように設定した。

「道徳科の授業」において主題に対する問題意識を高め、道徳的価値を自分との関わりで考えられるような発問や言語活動を工夫するとともに、保護者や地域の人材(教材)を活用することにより、自分のよりよい生き方についての考えを深め、主体的に行動しようとする心を育むことができるであろう。

IV 研究内容

児童生徒に「自分の生き方についての考えを深め、主体的に行動しようとする心」を育むためには、道徳教育の要となる道徳科の授業において、主体的・協働的な学習活動を展開することが必要である。

そのためには、児童生徒の思考を深めたり、広げたりする指導過程の充実を図るとともに、児童生徒・教員・保護者そして地域の人材(教材)や体験活動を意図的・計画的に教育活動に位置づけることが大切である。

そこで、研究の対象を「道徳科の授業」とし、研究内容を次のように設定した。

- ①道徳科授業の質の向上
- ②道徳科における評価の在り方
- ③保護者や地域の人材(教材)を活用した指導の工夫

V 研究の全体構造図

【目指す子ども像】

「自分のよりよい生き方についての考えを深め、
主体的に行動しようとする子ども」

【研究主題】

「自分のよりよい生き方についての考えを深める道徳科」
～主体的・協働的な学習を通して～

【研究仮説】

「道徳科の授業」において主題に対する問題意識を高め、道徳的価値を自分との関わりで考えられるような発問や言語活動を工夫するとともに、保護者や地域の人材(教材)を活用することにより、自分の生き方についての考えを深め、主体的に行動しようとする心を育むことができるであろう。

【研究内容】

道徳科授業の
質の向上

道徳科における
評価の在り方

保護者や地域の人材
(教材)を活用した指導

VI 事業及び研究の進め方

1 事業名

滝川市道徳教育推進事業（令和3年度～令和7年度） ※5か年研究1年次

2 事業のねらい

本市が推進してきた「児童生徒の心に響く道徳教育推進事業（平成19～20年度）」・「滝川市道徳教育推進事業（平成21～令和2年度）」の成果を「広げる・深める」ことを通して、本市における道徳教育の更なる充実に資することをねらいとする。

- (1) 道徳科授業の質の向上
 - ・自分のよりよい生き方についての自覚を深める指導の工夫（教材の効果的活用を含む）
- (2) 道徳科における評価の在り方
 - ・子どもによる自己評価と教師による評価
- (3) 保護者や地域の人材(教材)を活用した指導
 - ・保護者と連携した「子どもの心を耕す」取組の充実
 - ・地域の教育力の積極的な活用（「はーとふる」「きたものがたり」の活用を含む）
- (4) 研究成果の還流・発信
 - ・実践発表会の実施
 - ・実践資料の各学校への配布（DVD版）と滝川市教育委員会 HP 掲載による道徳科授業の実践内容に係る保護者や地域に向けた発信

3 事業及び研究の進め方

- (1) 滝川市道徳教育研究会議の設置

本事業における研究を推進するために、「滝川市道徳教育研究会議」（以下、研究会議）を設置する。
- (2) 研究会議は、市内小・中学校教員 10 名（小学校 6 名、中学校 4 名）と事務局（教育委員会職員）により構成される「滝川市道徳教育研究会議」を設置し、研究を推進する。
- (3) 研究会議の活動
 - ①道徳科に係る理論研究を行う。
 - ②授業実践を通して研究仮説の検証を図る。
 - ③5年間で10校の研究授業を実施する。
※令和3年度から2校ずつ
 - ④実践発表会を開催して研究成果を還流・発信する。また、実践資料を作成し、各学校に配布するとともに、滝川市教育委員会HPにも掲載する。

4 令和3年度研究推進の重点（※令和2年度の成果と課題より）

- (1) 『主体的・協働的』な学習の姿を明らかにする「発問」の検討
 - ・児童生徒が道徳的価値を自分ごととして主体的に思考することを促す発問
- (2) 道徳科における評価の在り方
 - ・子どもによる自己評価と教師による評価
- (3) 学校、家庭、地域連携の要となる「特別の教科 道徳」の充実
 - ・「学級通信」や「教科書」等を活用した双方向の情報・意見交流
 - ・外部講師となり得る人材のリスト化(外部講師バンクの作成)

5 児童生徒の変容を把握するための手だて

- ・滝川市道徳教育研究会議作成「道徳アンケート」の実施
- ・計画的な児童生徒の観察
- ・各校の自己点検、自己評価
- ・感想文、ワークシート
- ・児童生徒に対するアンケート
- ・保護者へのアンケート
- ・自校内はもとより、学校間、校種間を越えた教師の話し合い など

6 本事業における道徳科の授業公開の実施計画

(1) 研究会議による公開授業研究

各研究員が研究理論に基づき公開研究授業を行うことで、研究主題の具現化を図る。

(2) コスモステー地域一斉参観日における道徳科の授業公開

期 日：令和3年10月29日（金） 滝川市地域一斉参観日

市民に向け、市の広報で地域一斉参観日の開催を知らせ、広く授業を公開する。

※中止（新型コロナウイルス感染症対策のため）

7 その他

本研究では、小学校、中学校における「特別の教科 道徳」の実施に伴う情報の提供を行う。

VII 研究推進の経過

【5か年計画1年次】

- ・第1回研究会議（令和3年 5月18日） 研究会議結成、推進計画
- ・第2回研究会議（令和3年 6月23日） 理論研究
- ・第3回、第4回研究会議（令和3年 9月～10月）※書面会議
指導案検討
- ・研究授業①（令和3年10月29日） 明苑中学校
- ・研究授業②（令和3年11月16日） 西小学校
- ・第5回研究会議（令和3年11月26日） 研究協議（授業反省）
- ・第6回研究会議（令和4年 1月20日） 研究のまとめ
- ・第7回研究会議（令和4年 2月17日） 実践発表会
- ・「令和3年度実践報告書」の発刊（令和4年 3月）

VIII 令和3年度 滝川市道徳教育研究会議 名簿

<研究員>

滝川第一小学校	駒 井 大 河	東小学校	板 垣 昭 太
滝川第二小学校	金 子 薫	江陵中学校	柳 沼 範 江
滝川第三小学校	松 岡 こ ず え	明苑中学校	高 橋 悠 希
西小学校	新 谷 駿 介	開西中学校	久 保 匡
江部乙小学校	田 中 洋	江部乙中学校	月 岡 直 紀

<運営者>

滝川市教育委員会 教育長	田 中 嘉 樹
滝川市教育委員会 教育部指導参事	橋 本 展 晴
滝川市教育委員会 教育総務課主査	佐 藤 憲 弘
滝川市教育委員会 教育総務課主事	中 谷 優 希

研究理論

I. 道徳科授業の質の向上～『主体的・協働的』な学習の姿を明らかにする「発問」～

①児童生徒が道徳的価値を自分ごととして主体的に思考することを促す発問

児童生徒に自己の生き方についての考えを深め、他者とよりよい関係を築きながら行動する心をはぐくむためには、道徳科の授業において児童生徒が他者との関わりを通して、道徳的価値を自分ごととして捉えながら思考する学習活動を展開することが大切である。そうした学習活動を促す上で、「発問」の質を向上させることは欠かせない要素といえる。

ア.（思考の）土台作りの発問

- ・ねらいとする道徳的価値に関わり学習テーマを設定する（情報を共有する）ための発問

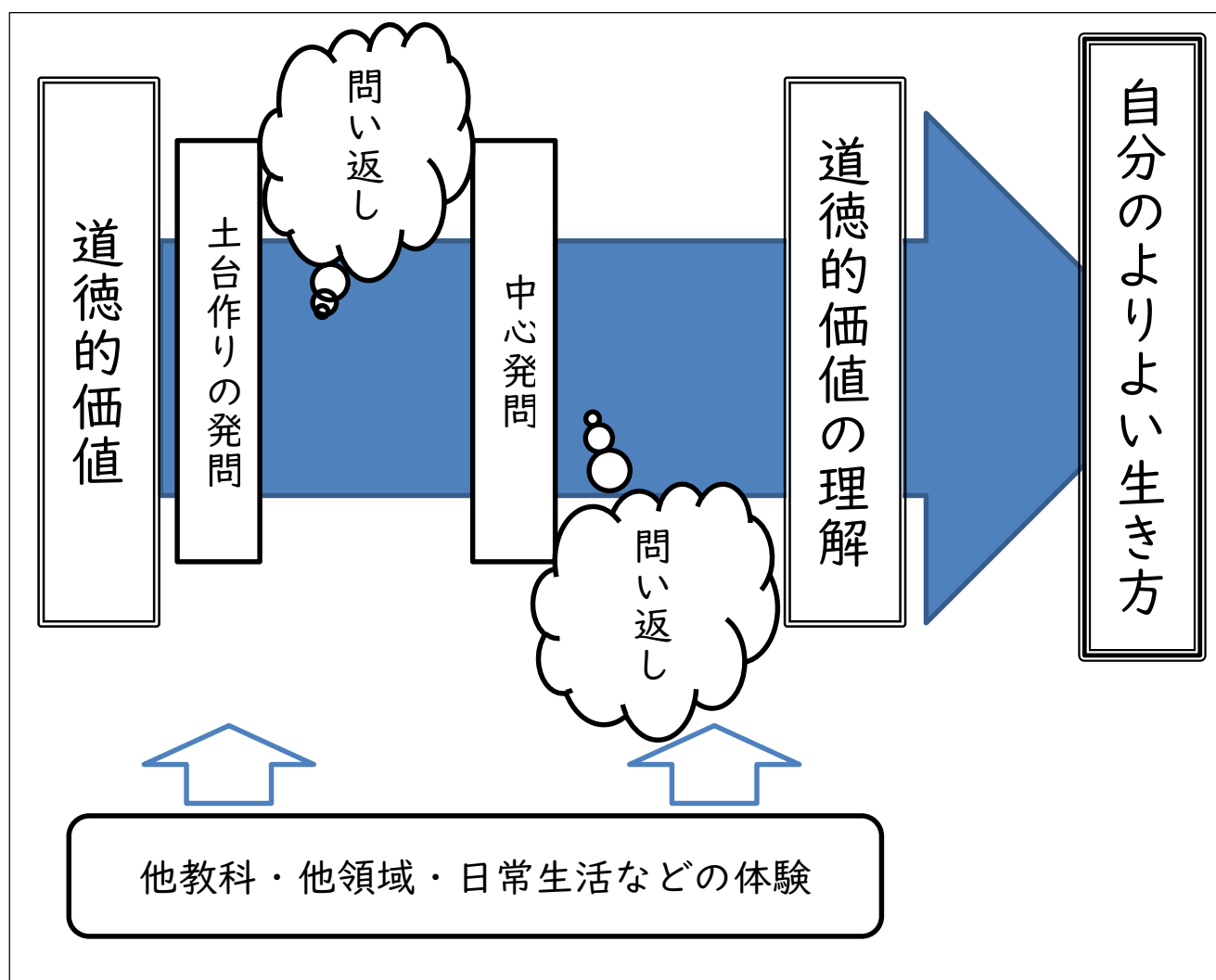
イ. 中心発問

- ・ねらいとする道徳的価値に迫るために「決め手」となる発問

ウ. 問い返し

- ・中心発問に向かうための発問
- ・思考を深めるための発問

【1 単位時間の授業における発問のイメージ】



【令和3年度実践例】西小学校

展開部において、導入部と同じような発問（問い返し）をすることにより、児童たちに迷いが生じた。問い返しは、児童の思考を深める上で、効果的なものとなった。



【令和3年度実践例】明苑中学校

生徒たちの反応を見て、指導案上にはない問い返しを行った。そのことにより、生徒たちの再考したり、熟考したりする姿が見られた。

参考（令和2年度までの実践より）

1. 児童生徒の思考を深める発問の工夫

（1）学習指導過程の特質に応じた発問の工夫

児童生徒の道徳的価値の理解を基に、道徳性を養うためには、教材の道徳的価値を自らの生き方と関連づけて、考えさせることが必要である。そのためには、学習指導過程の特質を踏まえた教材の活用と合わせた発問の工夫が大切である。

導 入

<ねらいとする道徳的価値への方向付けの段階>

- ・道徳的価値に意識を向ける。
- ・主題に対する興味や関心を高める。
- ・学習に向かう雰囲気をつくる。

【 留 意 点 】

- ・道徳的価値が自分とかかわりがあるという意識をもたせる。
- ・考えるための視点をもたせる。

○教材提示の工夫

- ・アンケート調査の結果の提示
- ・絵画、写真、実物
- ・音声や音楽
- ・新聞記事や作文、詩
- ・地域素材、実験観察 等

- ・興味、関心を喚起させる発問
- ・資料に関する発問や説明
- ・体験を振り返らせる発問
- ・自分を振り返らせる発問 など

展開

＜中心的な教材によって道徳的価値についての自覚を深める段階＞

- ・教材の中の登場人物を通して、道徳的価値を追求し、把握する。
- ・多様な考え方、感じ方に出会う。
- ・自分の生活、生き方、在り方を振り返る。

【留意点】

- ・多様な考え方、感じ方を引き出すための発問を行う。
- ・登場人物に同化させ、自分の考え方や感じ方を表現できるようにする。
- ・自分自身を自覚させるようにする。

○教材提示の工夫

- ・読み物教材の読み聞かせ
(スライド等での提示)
- ・教材の分割提示
- ・教材の繰り返し提示
- ・VTRの活用 など

○思考を深める工夫

- ・自分の考えを書く活動
- ・ペアでの対話
- ・小集団での話し合い
- ・座席配置の工夫
- ・スムーズな思考を促す板書の工夫 など

- ・教材中の事実や場面、状況を問う発問
- ・登場人物や場面についての感想、判断、意見などを問う発問
- ・児童生徒の発言や反応を生かした発問
- ・思考に揺さぶりをかける発問
- ・人物の心情に迫る発問 など

終末

＜ねらいとする道徳的価値に対する考えや思いをまとめたり、今後につないだりする段階＞

- ・道徳的価値を確かめ、整理し、まとめる。

○終末の工夫

- ・感想の発表
- ・教師の説話
- ・書く活動
- ・補助教材の提示 など

【留意点】

- ・望ましい行為への決意表明などは行わないようにする。
- ・児童一人一人が、自らの道徳的な成長や明日への課題などを実感でき確かめることができるような工夫が必要である。

- ・今日の授業についての感想を問う発問
- ・自己の変容や気づきについて問う発問
- ・実践への意欲化を図る発問 など

(2)「展開」における教材の魅力を引き出す発問の工夫

展開において、児童生徒の思考に揺さぶりをかけたり、人物の心情に迫らせ、教材に含まれている道徳的価値に気づかせたりするためには、教師の発問が重要であり、次の点に留意して発問を構成することが大切である。

- ① 教材に回答が記述してあることを聞くだけの発問構成をさける。中心発問はねらいとする道徳的価値について考える切り口に関わるものとして設定する。
- ② 行動の仕方だけを考える発問はさけ、行動の根拠となる心の在り方に関する発問を設定する。
- ③ 読み物教材において、教材中の副詞や副詞句に留意して発問を構成する。行動は動詞で表現されるが、内面的な心の動きを表現するのは副詞や副詞句である。

例) 下線の部分に注目して、ねらいにせまる発問をする

・・・夕焼けの光の中で、祖母の背中が幾分小さくなったように見えた。

発問「祖母の背中が『幾分小さくなったように』見えたのは、主人公の心にどのような思いがあったためだろう？」

道徳的価値の自覚を深める「展開」における発問例

1 展開前段～中心教材を通して価値を追求させる段階～	
ア 道徳的心情を問う発問	「～の場面での主人公は、どんな気持ちですか？」
	「～の時、主人公はどう感じましたか？」
	「主人公の心は、どうなりましたか？」
イ 道徳的判断力を問う発問	「主人公は、そのことをどう考えましたか？」
	「主人公は、どんなことがわかりましたか？」
	「主人公は、どちらを選ぼうとしたと思いますか？」
ウ 道徳的態度を問う発問	「主人公は、どんな生活をめざしましたか？」
	「主人公は、どんなことを心がけていますか？」
2 展開後段～価値を主体的に自覚させる段階	
ア 欠けていた面に目を向けさせる発問	「今までの自分の～に対する考え方で足りなかったと思うことはありますか？」
イ 直接経験から学ばせる発問	「～したとき、自分も悩んだり、迷ったりしたことはありませんでしたか？また、そのことを今、どう思いますか？」
ウ 間接経験から学ばせる発問	「～について、今までに人から聞いたり、本で読んだりしたことはありませんでしたか？また、そのことを今、どう思いますか？」
エ プラスやマイナスの経験を引き出す発問	「～について、今までにできたことや、できなかったことはありませんでしたか？また、そのことを今、どう思いますか？」
オ 主人公と比較して内省させる発問	「主人公と自分を比べて、違ったことや、新しく気が付いたことがありますか？」
カ 先人の行いから学ぶ発問	「～から私たちが学ぶことは、どんなことですか？また、それを生かすには、どんな心がけが大切だと思いますか？」

Ⅱ. 道徳科における評価の在り方

①子どもによる自己評価と教師による評価

子ども自身による評価、子ども同士による評価、教師による評価等、様々な方法で、子どもの自己評価を促し、学びを意味付けしたり、学んだことを自分の生活や行動につなげたりすることが重要である。

評価する対象は、学んだ内容、学び方、学びの道筋等、自分の学びについての様々な事柄が考えられる。

このように、評価に係る方法（どのように）や対象（何を）、タイミング（いつ、どの場面では）は様々であるが、子どもの発達段階や進捗状況に応じて、教師は、目的や意図をもって、それらを取捨選択したり、組み合わせたりしながら子どもによる自己評価の活動場面や教師による評価（見取り）※の場面を設定する。

※教師による評価（見取り）

【評価基準】

ア. 一面的な見方から多面的・多角的な見方へと発展させているか

例）・道徳的価値に関わる問題に対する判断の根拠やその時の心情を様々な視点から捉え考えようとしているか。

- ・自分と違う立場や感じ方、考え方を理解しようとしているか。
- ・複数の道徳的価値の対立が生じる場面において取り得る行動を多面的・多角的に考えようとしているか。

イ. 道徳的価値の理解を自分自身とのかかわりの中で深めているか

例）・読み物教材の登場人物を自分に置き換えて考え、自分なりに具体的にイメージして理解しようとしているか。

- ・道徳的な問題に対して、自分の取り得る行動を他者と議論する中で、道徳的価値の理解をさらに深めているか。
- ・道徳的価値を実現する難しさを自分事として捉え、考えようとしているか。

1 年道徳ワークシート
「数」

1年 組 第 1 学期

「自分がタマゴマンだったら、「事実を話す」「事実を話さない」とどちらの気持ちで話したいかを表現しよう。

＜理由＞

②「タマゴマン、どんなことがあっても、お友達とお母さんはお友達でいてほしい。」

＜友の思い＞

＜タマゴマンの思い＞

共通する思いはなんだろう？

お友達はお友達のために、これからどう行動していきたいですか。具体的に書きましょう。

④自分の考えを振り返ってみよう。

1. 自分は考えを聞くことができたか？	A	B	C	D
2. 友達のを考えを聞くことができたか？	A	B	C	D
3. 授業の内容について、深く考えることができたか？	A	B	C	D

A: 最初からできた B: できた C: 途中でできた D: できなかった

【令和3年度実践例】明苑中学校

ワークシートを活用することにより、生徒たちは、自らの考えを整理し、ねらいとなる道徳的価値の理解を深めたり、物事を多面的・多角的に考えたりすることができた。

一方、教師は、生徒の考えやその変容を見取ることができ、授業改善へとつなげることができた。

【令和3年度実践例】西小学校

スプレッドシートを活用することにより、記述が苦手な児童の考えを表出させることができた。

また、「なるほどマーク」(右の表)は、児童同士の評価として機能していた。

3	東 萌々音	自分たちがきいてないだけで他の人も、注意しにしようとしてたかも	
4	飯塚 龍雅	いろいろな人にめいわくをかけていたかもしれない	
5	長内 聖人	図書館はみんなの静けさが大声で迷惑をかけるのは良くない	  
6	河地 季	じゃあお兄さんは、うるさくしたり、他人に迷惑をかけたことがないのかな〜それの自分も注意されてきを	  
7	北野 博羽	他の人にも迷惑がかかっていたかもしれない。	 
8	木村 仁湖	他の人に迷惑がかかっていたかもしれない。	 
9		本を書いたほうが良かったかな...	

参考（令和2年度までの実践より）

1. 道徳科における言語活動の充実

学校の教育活動全体で言葉を生かした教育の充実が求められている。言葉は、知的活動だけではなく、コミュニケーションや感性、情緒の基盤である。道徳科の授業においてもその言葉を生かした教育についての充実を図ることが大切である。

(1) 道徳科の授業における言葉

道徳科の学習では、中心的な教材を活用し、児童の体験や教材に対する感じ方や考え方を交えながら話し合いを深めることが学習の中心となることが多い。その意味からも、道徳科の授業における言葉の役割はきわめて大きい。

国語科では言葉にかかわる基本的な能力が培われるが、道徳科の授業では、このような能力を基本に、教材や体験などから感じたことや考えたことをまとめ、発表し合ったり、討論や討議などにより意見の異なる考え方に接し、協働的に議論したり意見をまとめたりする。

具体的には、

- 教材の内容や登場人物の気持ちや行為の動機などを考える。
- 友達の考えを聞いたり、自分の考えを伝えたり、話し合ったり書いたりする。
- 学校内外での様々な体験を通して感じ、考えたことを、道徳科の授業において言葉を用いて交流したりする。

このような活動の中で、国語科等で培った言葉の能力が生かされ、一層高められていく。

したがって、道徳科の授業においては、このような言葉の能力を総動員させて学習に取り組ませることが、ねらいを達成する上で重要である。

(2) 自分の考えを基に書いたり話し合ったりする（表現する）機会の充実

話し合いは道徳科の授業によく用いられる指導方法であるが、話し合いを深めるためには、児童生徒一人一人に自分の考えをもたせ、効果的に表現させるなどの工夫が必要である。

ア 自分の考えを明確にさせるための書く活動

教材から感じた自分の思いや考えを、自己の生活、体験、知的経験等に引き寄せて明らかにするためには、「書く」という活動が大変重要である。

書く活動により、児童生徒が自ら考えを深めたり、あいまいであった考えを整理したり

する機会となる。

したがって道徳科の授業においては、自分の考えを明確にさせるための書く活動に必要な時間を十分に確保することが大切である。

また、書く活動により、児童生徒の感じ方や考え方をとらえ、個別指導を進める重要な機会にもなる。更に、1冊に綴じられた「道徳ノート」などを活用することによって、児童生徒の学習を継続的に深めるとともに、その変容を見取ることが可能となる。

イ 個々の考えを広げ、深めるための話し合い活動の工夫

道徳科の授業において、自分の思いや考えをより多面的にとらえたり、新たな考えに出会い深化させたり、自己の葛藤の中から新たな価値観を見いだしたりしていくためには、話し合い活動が重要な役割を果たす。

話し合い活動を深めるためには、意見を出し合う、まとめる、比較する等の目的に応じて場の設定等を工夫することが大切である。具体的には、

- ・児童生徒同士の顔が見えるような座席配置を工夫する。
 - ・グループやペアによる話し合いを取り入れる。(話す機会が増え、多くの発言を引き出すことができる)
 - ・同じ考えをもつ子ども同士が集まるように座席の移動を行い、一人一人の立場を明確にして話し合う。
- などの工夫が考えられる。

道徳科の授業における話し合い活動は、友達との話し合いにより自分なりの思いや考えが深まり、道徳的価値の自覚につなげていくことが大切である。そのためには、学級の中に全ての意見を受け入れる温かい風土が確立されていることが前提となる。

2. 道徳科の授業における「書く活動」「話す活動」の役割とねらい

学校の教育活動全体で言葉を生かした教育の充実が求められている。言葉は、知的活動だけではなく、コミュニケーションや感性、情緒の基盤である。道徳科の授業においてもその言葉を生かした教育についての充実を図ることが大切である。

(1) 「書く活動」の役割とねらい

書くことは、教材との出会いで生じた自身の思いや考えを深めたり、整理したりすることにつながる。また、書く際には、論理的な思考力や適切な判断力が求められ、それらの能力の育成にもつながる。そして、書くという自己を表現する活動によって、自分の考えや立場を明確にすることもできる。そして、書いた内容は周囲の人たちと共有し、共通のものとすることもできる。

本研究では、これらを「書く活動」の役割・ねらいとおさえる。

(2) 「話す活動」の役割とねらい

話すことには、情報伝達の役割がある。また、他者に対して、自己についての理解をうながすねらいもある。そして、伝達や交流によってよりよい考えを生み出すという意味合いもある。

本研究では、これらを「話す活動」の役割・ねらいとおさえる。

◆「書く活動」の役割とねらい

- ①自らの考えを深めたり、整理したりする。
- ②論理的な思考力や適切な判断力を育成する。
- ③自分の考えや立場を明確にする。
- ④周囲の人たちと共有し、共通のものとする。

◆「話す活動」の役割・ねらい

- ①情報伝達のねらいがある。
- ②他者に対して、自己について理解をうながす。
- ③伝達や交流によってよりよい考えを生みだす。

「書く活動」と「話す活動」は、いずれも主として言語による表現活動である。前者は文字言語によって、後者は音声言語によって行われる。

学級で話し合うとき、事前に自分の考えなどを一人ひとりに書かせる。このことは、自分の考えを持つ機会になると同時に、「話す活動」に参加するための前提となる。

また、子どもたちは互いに話すことによって、違った考えや見方を知ることができ、新たな知識を習得することができる。この活動を通し、初めに考えたことが、その後に修正される可能性が生じてくる。

話したあとに改めて「書く活動」を組み入れることにより、これまでの学習を振り返り、自分の考えの変容を自覚することができ、自己評価をする機会になる。

3. 「書く活動」「話す活動」を生かした指導過程の工夫

「書く活動」と「話す活動」が道徳科の授業の中で意図的・計画的に仕組みられ、それぞれの活動を充実させることにより、道徳科のねらいである、道徳的価値の自覚と自己の生き方についての考えを深めることにつながると考える。このような指導過程を基本とし、道徳科の授業を行うことによって、目指す子ども像「自己の生き方についての考えを深め、主体的に行動しようとする子ども」に迫っていきたいと考える。

Ⅲ. 保護者や地域の人材(教材)を活用した指導

児童生徒に自他の生命を大切にするなど豊かな心をはぐくむためには、様々な人たちとのかわり合いの中で、多様な生き方・考え方を学ばせることが必要である。

そのためには、道徳科の授業において保護者や地域の方などを外部講師として招き、生き方や生命に関する貴重な経験など、主題や中心教材にかかわって話をしてもらい、質問を受けてもらうなどの指導の工夫が求められる。

参考（令和2年度までの実践より）

1. 学習指導過程への位置付け

保護者や地域の方などの支援による指導を充実させるためには、次の視点で学習指導過程を工夫することが大切である。

導入

・導入において保護者や地域の方をお願いする話の内容などについては、主題について児童生徒が興味や関心をもったり、課題意識を高めるよう配慮することが大切である。

展開

・保護者や地域の方の語りや説話を、展開における中心教材として位置づける場合は、児童生徒たちの話し合いが深まるよう、保護者や地域の方などから問いかけを入れていただくことが効果的である。

・保護者や地域の方の講話などを、補助的な教材として位置づける場合は、主題にかかわる事柄を補足したり意味付けをすることもできる。話し合いを深めるためには、保護者や地域の方が直接、児童生徒たちの討議に参加することも考えられる。

終末

・児童生徒に寄せる保護者や地域の方の愛情は、児童生徒の心に響き感動的な話としていつもまでも心に残る。終末における保護者や地域の方の説話などを、1時間のまとめとして活用したり、今後の発展につなげることが大切である。

2. 保護者や地域の方を迎えるための配慮事項

保護者や地域の方の支援を得るにあたって次のことに配慮することが必要である。

道徳授業の特質

・保護者や地域の方を招いた授業を授業改善の一つととらえ、道徳科の特質を押さえ、有意義なものとなるように工夫する。

事前打ち合わせ

・保護者や地域の方から協力をいただく目的、授業のねらいと参加していただく形態などについて、事前に打ち合わせをしておくことが大切である。

あいさつやお礼

・保護者や地域の方に対する接し方やあいさつ、授業後のお礼の手紙など、児童生徒に対するきめ細やかな指導が必要である。

3. 道徳授業の発信と双方向の取組

児童生徒の豊かな心をはぐくむことは、1時間の授業のみで完結することはありません。また、学校における指導のみで十分ではないことも言うまでもない。学校と家庭が同じ方向を向き、子どもの豊かな心を育てる思いを共有しながら道徳教育を推進することによって、初めて成果が表れるものとする。

そのためには、学校で行っている道徳授業に関わる積極的な情報の発信と、教師と保護者双方の取組の推進が求められる。

第3章

令和3年度 授業実践

道徳科学習指導案

日 時 令和 3 年 1 1 月 1 6 日(火) 3 校時
児 童 滝川市立 学校 5 年 2 組 2 6 名
指導者 教諭 新谷 駿介

1. 主題名「自他の権利を大切に」 高学年 C—規則の尊重

2. ねらいと教材

(ねらい) ①約束やきまりを守ることの大切さがわかる。

②社会のきまりの意義について考え、それらを守ることの大切さについて
多面的・多角的に考える。

③自他の権利を大切にするために、自分の権利を主張するだけでなく、
自分の果たすべき義務について向き合おうとする意識を高める。

(教材名)「図書館はだれのもの」(小学どうとく 5 はばたこうあすへ 教育出版)

3. 主題設定の理由

(1) 児童の実態 (児童観)

本授業を行うにあたり、ねらいとする価値に対する児童の実態を把握するため、
道徳性に関するアンケート調査を実施した。本時に関連する項目の結果は次の通り
である。

項 目			ア	イ	ウ	エ
A	6	正しい考えをもって、物事に取り組もうとしている。	2	16	5	1
B	11	相手の立場にたって考え、自分と違う考えも大切にしている。	4	10	10	0
C	12	学校や社会のルールを守り、自分のすべきことを果たしている。	0	14	10	0

ア～いつもしている、そのとおりだ イ～だいたいしている、だいたいそのとおりだ
ウ～あまりしていない、あまりそうではない エ～全然していない、全然そうではない

今年度、進級に伴い編制をした学級である。自己表現することに不安を抱える児童が多く挙手や発言には偏りが見られる。そのため、学習規律を整える際にある程度の自由を許してきた。全体の場では緊張して発言できない児童も、少人数であれば意欲的に活動することができるようになった。一方、個人間の不和が原因で他人を傷つける言動をしてしまうことがあり学級全体に指導をしたためか、対人に関わるアンケート項目は担任の体感とは異なる結果が出た。問題に直面した際の行動の在り方を一人一人が見つめ直したことによるものだと捉えている。本授業では個々の意見を集約しながら、時と場合に応じた適切な行動を心がける必要があることに気づかせ、考えを深めさせたい。

(2) ねらいとする道徳的価値について（授業者の価値観）

高学年段階においては、社会生活上のきまり、基本的なマナーや礼儀作法、モラルなどの倫理観を育成することが必要となってくる。また、日常生活において、権利や義務という観点から、自他の行動などについて考えを深めたり、それらを尊重したりすることは少ない。指導に際して、他人の権利を理解・尊重し、自分の権利を正しく主張するとともに、義務を遂行しないで権利ばかりを主張していたのでは社会は維持できないことについても具体的に考えを深め、自分に課された義務についてはしっかり果たそうとする態度を育成することが重要である。

(3) 教材について（教材観）

主人公を含む新聞づくり編集部員が調べものをしようと、休日午後の市立図書館で資料を探し始める。その日のうちに集めた資料を新聞にまとめようと、その場で相談を始めた。「読む人のことを考えて、わかりやすい記事にしよう」と議論するうちにだんだんと熱が入り、声が大きくなってしまった。その時、近くで勉強していた大学生くらいのお兄さんが「静かにしなさい」と注意をするのだが、すぐに謝った私とは裏腹に、他の部員たちは口を紡いだままだった。結局、新聞づくりは終わらずに、帰り道に部員たちは口々に不満を言い合う様子を見て、私にはすっきりしない気持ちが残ってしまうのだが…。

本授業では、この「すっきりしない」思いに着目し、双方の思いを踏まえたうえで本質である権利の尊重について考えさせ、自己の生活に生かせるよう見守りたい。

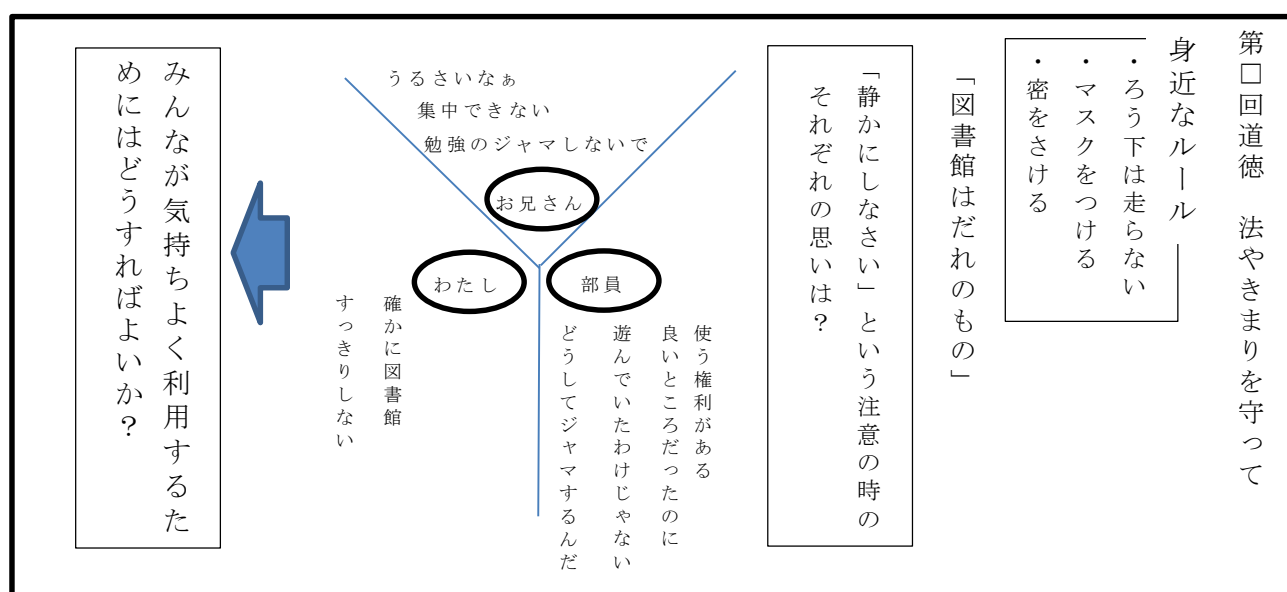
4. 本時の展開

段階	主な発問 (○土台、●問い返し、◎中心)	予想される児童(生徒)の発言・思考	教師のかかわり ◆評価、 教師の手立て
導入 5分	1 身近にあるルールを確認する。 ○身近にはどんなルールがありますか。 2 「図書館はだれのもの」(p.77 13行目まで)を読む。 ○「真剣に作業した部員」と「注意をしたお兄さん」のどちらが正しいと思いますか。(挙手)	・ ろうかは走らない。 ・ マスクを付ける。 ・ 密をさける。 ・ お兄さん。 ・ うるさくした部員が悪い。	取り上げる場面の明確化 ・ 文章を読みながら、話の流れを整理したスライドを投影する。

展開前半 20分	3 「図書館はだれのもの」を最後まで読み、話し合う。 ○「静かにしなさい」という注意の時、お兄さんと部員はそれぞれどんなことを考えていたでしょう。 ●「図書館を使う権利がある」と言った部員と「静かにしなさい」と注意をしたお兄さんのどちらが正しいと思いますか。(挙手) ○自分だったら、「確かに図書館はみんなのもので、わたしたちにも使う権利はあると思うけど…」の後にどんな言葉を続けますか。	・お兄さんは困っていた。集中できない。 ・みんなの場所なのに。 ・部員たちには目的があった。 ・どちらも正しい。 ・どちらも間違いではない。 ・もやもやする。 ・すっきりしない。	・思考ツール（Y字チャート）を使い、子どもの思考を板書に整理する。 ・子どもたちが判断に迷うと思われる。その迷いを言語化させる活動を通して、物語の主人公に投影させて考えさせる。 I C T 機能を活用した考えの見える化及び考えを深めさせる場の設定 ・Google スプレッドシートに自分の考えを書き込む。共感できる考えにはマークを付けさせる。
展開後半 10分	◎みんなが気持ちよく利用するためにはどうすればよいでしょう。	・相手のことを思いやる。 ・公共の場ではマナーを守る。 ・たしかに権利はあるけど、自分の権利ばかり主張するのは良くない。 ・間違えたときはしっかり謝るのが良い。	・Google ジャムボードにグループの考えを書き込ませる。

終 末 1 0 分	4 身近にあるルールの意味について考える。 ○身近にあるルールについて、自分のことを省みて、授業の感想を書きましょう。	・どのルールも、しっかり守ることで他の人に迷惑をかけない。	◆約束やきまりを守って、自分に課せられた義務を守り、自他の権利を尊重する大切さについて、自分との関わりで考えることができるか。 (ノート)
-----------------------	---	--------------------------------------	---

5. 板書計画



《引用参考文献》

- ・ 小学校学習指導要領解説 道徳編
- ・ 考え、議論する道徳をつくる新発問パターン大全集

文部科学省
道徳教育編集部 著

道徳科学習指導案

日 時 令和3年10月29日(金)3校時
児 童 滝川市立明苑中学校1年3組30名
指導者 教諭 高橋 悠希

1. 主題名「家族の思いにふれて」

C(14)一家族愛、家庭生活の充実

父母、祖父母を敬愛し、家族の一員としての自覚をもって充実した家庭生活を築くこと。

2. ねらいと教材

(ねらい) 家族の深い愛情に気づくとともに、家族の一員として果たすべき役割や責任を理解し、より充実した家庭生活を築こうとする意欲や態度を育てる。
(教材名) 「靴」(新訂 新しい道徳1 東京書籍)

3. 主題設定の理由

(1) 生徒の実態

本授業を行うにあたり、ねらいとする価値に対する生徒の実態を把握するため、道徳性に関するアンケート調査を実施した。本時に関連する項目の結果は次の通りである。

項 目			ア	イ	ウ	エ
C	10	学校や社会のルールを守り、自分のすべきことを果たしている。	14	14	0	0
	11	だれに対しても公平に接している。	22	5	1	0
	12	世の中や人のためになることを進んでしている。	12	15	1	0
	13	クラスやクラブの活動などで、自分の役割を知り、責任を果たしている。	20	8	0	0
	14	家族の一員として、家族の役にたつことをしている。	14	12	2	0

ア～いつもしている、そのとおりだ イ～だいたいしている、だいたいそのとおりだ
ウ～あまりしていない、あまりそうではない エ～全然していない、全然そうではない

本学級は男女ともに活発に発言し、素直な反応をする集団である。一方で、一部の生徒の発言が目立ち、その他の生徒の意見が埋もれてしまう傾向もある。また、当番活動等自ら進んでクラスのために動こうとする能動的な生徒が多くはない。

事前にとった道徳に関するアンケート調査では、「家族の一員として、家族の役にたつことをしている。」と答えた生徒が他の項目より少し低い結果となった。本教材では、身近な存在である家族に目を向けさせることから、いかに自分はかけがえのない存在であるかを見つめさせていくこととする。家族からの愛情に気づき、家族の一員として何ができるかを考え、協力していこうとする意欲や態度を育てたい。

(2) ねらいとする道徳的価値について（授業者の価値観）

中学校の段階では、自我意識が強くなり、次第に自律への意欲が高まっていくため、自分を支えてくれる父母、祖父母の言動やしつけに反抗的になりがちである。家族の無償の愛情に支えられて現在の自分がいることに気づかせるとともに、家族の一員としての自覚と責任を果たすことが家族において大切であるということに気づかせたい。

(3) 教材について（教材観）

外靴の紛失で親に心配かけまいとする主人公のタマゴマンと、どんなことがあってもタマゴマンの味方として支えようとする親の姿を通して、家族の深い愛情に気づくとともに、家族への思いを考えさせることができる教材である。靴をなくした主人公の立場に立って考えさせることで、家族の一員として自覚し、積極的に家族に協力していこうとする態度を育てたい。

4. 本時の展開

段階	主な発問 (○土台、●問い返し、◎中心)	予想される児童(生徒) の発言・思考	教師のかかわり ◆評価、 教師の手立て
導入 5分	1. 家族からかけられた言葉を思い出す。 ○家族から言われて印象に残っている言葉は何ですか。	・スマホばかりしないで勉強しなさい！ ・部活頑張っているね。	・家族とのエピソードを思い出させる。

展開前半 15分	2.「靴」を P93~P95L15 まで範読し、自分がタマゴマンの立場だとしたらどうするかを考える。 ○自分がタマゴマンだったら、お父さんに外靴がなくなったことについて「事実を話す」か「事実を話さない」のどちらの気持ちが大きいですか。	・ 事実を話す気持ちが強い。 ・ どちらにするか迷っている。 ・ 事実を話さない気持ちが強い。 (理由) ・ 嘘は良くないから事実を話す。 ・ 親に心配をかけたくないから事実を話さない。	思考ツールを活用した考えの見える化 ・ お父さんに心配をかけたくないという気持ちは同じであるが、その伝え方には様々な方法があることに気づかせる。 ・ 心情円を活用して考えを表現させた後、理由と合わせて交流させる。
展開後半 20分	3.「靴」を P95L16~P98 まで範読し、それぞれの視点から考える。 ◎「タマゴマン、どんなことがあっても、お父さんとお母さんはおまへの味方だぞ。」という言葉に、お父さんはどのような思いを込めたのだろう。また、タマゴマンはその言葉を聞いてどう思っただろう。 ○両者に共通する思いは何だろう。 ・ 自分で考えた後、3、4人のグループで交流する。	【父の立場から】 ・ 何があっても応援しているから、遠慮せずに相談しなさい。 ・ 困ったことは何でも話してくれると嬉しい。 【タマゴマンの立場から】 ・ 心配してくれてありがとう。 ・ 心配かけてごめんね。 ・ 思いやり	多面的・多角的な思考を促す発問 ・ お父さんもタマゴマンもそれぞれの立場で気遣いをしていることに気づかせる。 ・ 家族一人一人が相手を思いやる気持ちが大切であることに気づかせる。

終 末 1 0 分	4. 導入で思い出した家族からの言葉を振り返る ○どういう思いで家族は自分にその言葉をかけたのだろう。 ○あなたは家族のために、これからどう行動していきたいですか。 ○振り返り	・自分のことが心配で ・励ますため ・家族は大切な存在だから家族のためにお手伝いをしたい。	◆自分の生活を振り返り、家族の一員としての自覚と、家族に協力しているこうとする気持ちを高めることができるか。(ワークシート)
----------------------------------	--	--	---

5. 板書計画

家族の思いにふれて

「靴」

○お父さんに「靴がなくなった」ことについて

「事実を話す」 or 「事実を話さない」

<理由>

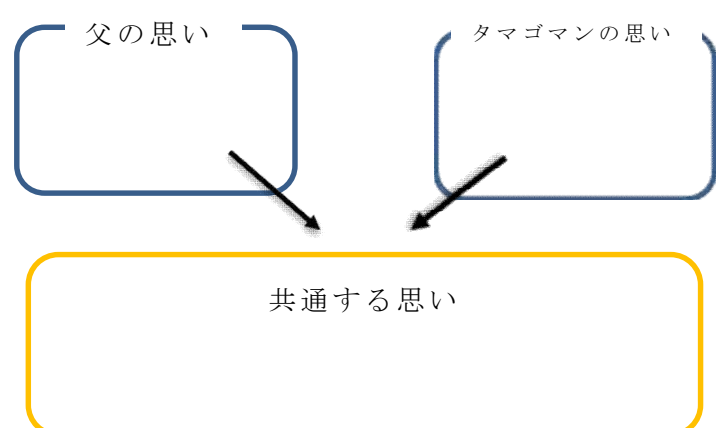


◎「タマゴマン、どんなことがあっても、お父さんとお母さんはおまへの味方だぞ」

父の思い

タマゴマンの思い

共通する思い



《引用参考文献》

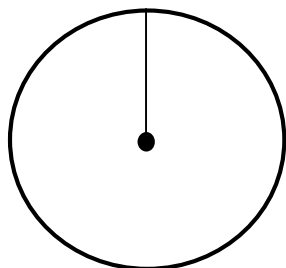
- ・ 中学校学習指導要領解説 特別の教科 道徳編

文部科学省

「靴」

1 年 組 番 名前

- ①自分がタマゴマンだったら、「事実を話す」「事実を話さない」どちらの気持ちが大きいかを表現しましょう。



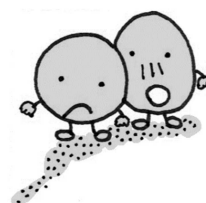
<理由>

- ②「タマゴマン、どんなことがあっても、お父さんとお母さんはおまえの味方だぞ。」

<父の思い>

<タマゴマンの思い>

共通する思いはなんだろう？



- ③あなたは家族のために、これからどう行動していきたいですか。具体的に書きましょう。

- ④今日の授業を振り返ってみましょう。

1. 自分の考えを書くことができましたか？	A	B	C	D
2. 友達の考えを聞くことができましたか？	A	B	C	D
3. 授業の内容について、深く考えることができましたか？	A	B	C	D

A：意欲的にできた

B：できた

C：あまりできなかった

D：できなかった

授業実践の反省～研究協議より～

主体的に思考することを促す発問について

- 発問の前に、先生が「みなさん、自分のことのように考えてください」と言ったのが、とても大切な働きかけだと思った。
- 土台づくりの発問「自分だったら『確かに図書館はみんなのもので、～』の後にどんな言葉が続けますか。」の発問が良かった。
- 発問の一つ一つが、子どもたちに考えさせるものとなっていた。
- 考える立場が明確になり、子どもたちは自分事として考えることにつながっていた。
- 問い返しの「どちらが正しい」の発問に対して、「どちらも」という考えもあったのではないかな。
- 多面的な思いを考えさせる発問にもつながっていた。
- 教材の前半と後半に分け、それぞれ異なる登場人物の立場で考えさせていたが、児童が混乱することなく、考え、整理することができていた。
- 問い返しの「どちらが正しい」。これは問うべきだったのか。それぞれの立場でどう考えているのかを問うことにより、主題に迫っていった方がよかったのではないかな。
- 導入部において、もっと身近なルールに焦点をあて「ルール」そのものが何のためにあるのかを考えさせる流れにすることも良かったのではないかな。
- ルールやマナー、きまりなど教材に出てくる言葉の理解は必要ではなかったか。
- お兄さんの口調の強さの理由を問うことも有効な発問となったのではないかな。



新谷駿介教諭

子どもによる自己評価と教師による評価（見取り）について

- Google スプレッドシートを使って、他者と考えを比較しながら、教師も子どもたちの間でも互いに評価できていた。
- Google スプレッドシートの「なるほどマーク」は、タブレット上で操作するだけなので、短時間でどの児童もできる評価方法であった。その反面、どこが部分が「なるほど」なのか、個々の考えが深まらないこともあるのではないかな。
- 「なるほどマーク」は、数名の子だけに付く可能性がある。そのことを考慮し、子ども個人の考えに対してではなく、グループの考えに対しての活用も考えられたのではないかな。
- 道徳ノートに振り返りを書くことで、授業の足跡が蓄積されており、子どもの気付きや変容を把握することにつながっていた。
- グループでの交流で授業が終わってしまったのは評価として不十分になってしまうので、最後は自分事として一人で思考し書く作業を取り入れた方がよりよいと思った。タイムマネジメントも大切だと感じた。
- 終末部において、「ルール」についてではなく、「みんなで使う場所」を利用する際に、これまで自分がどんな言動をとってきたか、ということを省みさせても良かったのではないかな。

授業展開、教師の手立て等について

- ICTを活用したことにより、子どもたちは活動すること、考えることが明確となった。
- 発問がテレビ画面に映され、わかりやすく、さらに時間の短縮につながっていた。
- Yチャートにより、それぞれの立場や考えが明確になっていてよかった。
- 考えや思いを共有するツールとしてのChromebookの活用方法をいろいろ見ることができた。
- ICTを活用した見える化が良かった。
- Google スプレッドシートを使用することにより、自分の考えを書けない子でも友達の考えを参考にできるため良いと思った。
- 図書館を利用する機会が少ない児童もいるのではないかと。実際の図書館のルールを紹介する時間があると良かったかもしれない。自分にとってより身近な学校の図書室利用のルールや、滝川市の図書館の利用のルール等を簡単に伝えるとより身近なこととして考えることができるのではないかと。
- 意欲的な児童が多く、活発に発言ができていた。
- 教材に対して、子どもがどんな印象を持ったり、受け止めたりするのかは、教材の吟味や提示の仕方によると感じた。
- 児童の感想の中で、「みんなが使う場所じゃなくてもルール・マナーを守れば注意をしなくても良いなと思いました」と記述されているものを読み、小学5年生でも、ここまで深く考えることができるのだと感心した。
- 児童の発言で「図書館は、みんなで使う場所だから他の本を読んでいる人たちに・・・」で口ごもる場面があった。その時に、先生が発言をまわし、次の生徒にその続きを考えさせた場面がとても良かった。その結果、「他の人に迷惑をかけないようにする。」という言葉が児童から出てきた。とても上手な導き方だと思った。
- Google ドキュメントに児童が打ち込んだ内容を、先生が読み上げる場面があったが、それを児童自身が発表している所を聞いてみたかった。
- 「Google ドキュメントに自分の考えを書き込む」ことは有効だと思ったが、最後のグループの話し合いの場面では、Chromebook から離れても良かったのではないかと考えた。しっかりと自分たちの思いを伝え合う場面があるとより授業内容にグッと深く迫ることができたのではないかと。
- 言葉を通して自分の意見を発信したり、反対に受信したりすることが価値を深めていくためには必須である。言葉を発信するための様々な情報共有の手立てが工夫されていた。
- Chromebook の活用や思考ツールなど大変参考になった。
- GoogleJamboard を用いてグループの意見を取りまとめる場面を見てみると、話し合っていて深めているというより、各自が意見を散発的に述べ、それを打ち込んでいるような印象を受けた。グループで単に意見をまとめさせたいという場合にはそのやり方でも十分に機能していると思うが、もう少し深く話し合わせたい場合は、一旦 Chromebook から離れさせる配慮も必要かもしれない。
- 終末部において「『規則』について考えたことを書きましょう。」とすると、多角的な意見が出てきたのではないかと。

授業実践の反省～研究協議より～

主体的に思考することを促す発問について

- 子どもの思考がスムーズにつながるような発問がされており、子どもが考えを持ったり、見通しを持ったりすることができていた。
- 立場を明確にして考えられるような発問になっており、その発問は、心情円を活用する際にも効果的であった。
- 導入部の土台づくりの発問と問い返しにより、生徒は経験をもとにして考えを持つことができていた。全員が学習に参加し、その後の思考を活性化するための良い発問であった。
- 全ての発問が適切であり、生徒の思考を深めるために必要なものであると感じた。
- 導入部の土台作りの発問は、考えを持ちづらかったり、端的になってしまったりすることがある。「こんな時、家族から何て言われる？」のように場面を想起すると意見をより持ちやすかったのではないかな。
- 導入部と終末部における自分のことを振り返り、省みるための発問により、主体的に思考し、考えを深めることができていた。
- 「『タマゴマン、どんなことがあっても、お父さんとお母さんはおまえの見方だぞ。』という言葉に、お父さんはどのような思いを込めたのだろう。」という中心発問の際、一晩経っていることに注目させた点が考えを深め深める上でとても効果的であった。また、状況の把握と両親の気持ちを考えるためにも必要な問いかえしだと感じた。
- 導入部の「家族に言われて思い出す言葉」で、生徒間の交流が積極的に行われていることから、土台づくりの発問としての成果が見られた。
- 中心発問は、自分の親と対比させながら、生徒たちは思考していたのではないかな。
- 最後の「あなたは家族のために、これからどう行動していきたいですか。」という土台づくりの発問は、「家族について考えたこと」の方が、多角的な考えが出てくるのではないかな。
- 「『タマゴマン、どんなことがあっても、お父さんとお母さんはおまえの見方だぞ。』という言葉に、お父さんはどのような思いを込めたのだろう。」という中心発問に対して、多くの生徒が「安心させたい」「楽しく学校に通ってほしい」という答えになっていた。例えば、「お父さんが『嫌なことがあるなら相談するんだよ』と言うのではなく『タマゴマン、どんなことがあっても、お父さんとお母さんはおまえの見方だぞ。』と言ったのはなぜだろう。」という中心発問（あるいは問いかえし）にすると、タマゴマンのプライドや両親に心配をかけまいとする気づかいをも大切にしようとするお父さんの思いやりに気付く生徒が増えるかもしれない。

子どもによる自己評価と教師による評価（見取り）について

- 「父の思い」「タマゴマンの思い」の両面から考えたことにより、「共通の思い＝家族の一員として」という思考につながっていた。
- ワークシートの構成は、思考の流れがわかりやすいものとなっていた。
- ワークシートは、教師の見取りや評価がしやすいものとなっていた。

- ワークシートの下段にある自己評価の中にある「授業の内容について、深く考えることができましたか？」については、短くてもいいので記述させると、生徒の学びをより正確に見取れるように感じた。
- 本時は、ワークシートの③で終わってもよかったのではないかな。
- 終末部以外での学習の深まりを見取れる評価があるとよかったのではないかな。
- 丁寧で見やすいワークシートであった。その反面、授業全体の流れやゴールが見えてしまうことも考えられる。
- ワークシートに記入することで、生徒自身も自分の考えが整理されていった過程が見える形になっていた。
- ワークシートに書く量と、話し合わせる時間配分を調整すると1単位時間でおさめることができたのかもしれない。
- ワークシートに書く時間が短く感じた。内容をもう少し絞ると良かったのではないかな。

授業展開、教師の手立て等について

- 生徒が進んで思考したり、活発に発言したりする姿から、普段の授業で生徒に寄り添ったり、全員の声を拾ったりしているのだと思った。言葉がけなど大変参考になった。
- 思考ツールは、本時の内容や捉えさせたい思いにつながっていた。うまく自分の考えを表現できない生徒も考えることができていた。
- 展開部を前半と後半に分けたことにより、思考の方向にブレが出ず良かった。
- ペアやグループでのワークシートの交換により、多様な考え方に触れることができた。
- 心情円を使うことによって、生徒は教材に向かい合うことができた。
- 心情円を取り入れることにより、自分の思考が明確になり主体的に話し合いに参加することができた効果があった。
- 生徒の気持ちの変化を問うために、心情円を最後に活用しても面白かったのではないかな。
- 振り返りの内容として、どんな振り返りが適切かつ意義があったのか。
- 終末部において、導入部に取り上げた家族からの言葉を振り返る場面があったが、思考の深まりがあったかを知る良い手立てだと思った。
- 高橋先生のはつらつとした雰囲気、安心して様々なことを伝え合うことのできる学級の土台となっていると感じた。
- 生徒からの質問に対して、状況が明確になるように説明していたため、曖昧な理解のまま取り組む生徒がいなかったと感じた。
- 道徳における振り返りとは、ABCなのか。より自分事として気づきやこれからの生活・生き方に結び付けて考えたことを記述（話すことを含む）することで振り返りとなるのではないかな。
- ノートを活用した授業をするならば、心情円を印刷し、活用することも考えられる。
- 思考ツールを活用し、互いに見比べさせたことにより、生徒の微細な考えの違いから対話が生まれ、互いに考えを深めることができていた。



第4章

成果と課題

1 研究内容について

（１）道徳科授業の質の向上～『主体的・協働的』な学習の姿を明らかにする発問～

①児童生徒が道徳的価値を自分ごととして主体的に思考することを促す発問について

成果	○導入段階で児童生徒が主体的に考えを進めることのできる発問の工夫が多く観られた。 ○実体験と関連させて考え、交流させることで、道徳的価値を捉えさせることができていた。 ○児童が主体的に思考するためにも、発問はもちろん学級経営があつてのものかなと思った。 児童と担任、児童と児童の信頼関係がなければうまくはいかないと思った。 ○土台づくりの発問から中心発問に至るまでの流れを具体的に検討されていた。特に、プレ授業をおこなったことで、より精選された発問になっていた。 ○本時で扱う「価値」について、「自分だったらどうする？」のような登場人物に投影できる発問は、より深く明確な意見を持つきっかけになっていた。 ○授業の導入場面において、教師が生徒に対し、自分ごととして考えることができるような発問をすることで、主体的に思考することができていたため、土台作りの発問として効果があった。 ○授業実践では、小・中学校どちらとも身近な話題・できごとから導入することで、教材を自分ごととしてとらえる効果があった。また、効果的な「問い返し」をすることで、児童生徒の思考をゆさぶったり深めていったりすることができていた。 ○（高橋教諭の授業から）『タマゴマン、どんなことがあっても、お父さんとお母さんはおまへの味方だぞ。』という言葉に、お父さんはどのような思いを込めたのだろう。」という発問の際、一晩経っていることに注目させた点が考えを深める上でとても効果的だったと思った。 ○（新谷教諭の授業から）教科書の序盤だけ読んだ段階で『真剣に作業した部員』と『注意をしたお兄さん』のどちらが正しいと思いますか。」と問うことでまず「お兄さん」側から考えさせ、そのあとに最後まで読んでから改めて問うことで「部員」側から考えさせていた。そのことにより、児童が混乱することなくそれぞれの立場や意見を頭の中で整理することができていたと思った。 ○生徒が身近な経験をもとにして主体的に捉えるように発問すると効果があること。 ○小学校、中学校の実践を見せていただいたことで、『発問』の重要性を再認識し、自分自身の実践の中で活かすことができた。生徒に、過去の経験や身近なできごとを考えさせることや、読み物の登場人物の心情を考えた上で、自分自身ならばどのように考え行動するかを問うことができた。 ○主体的・協働的な発問を意識することで、児童が道徳活動を自分の生活に置き換えて考えることができていた。児童の中でも道徳の学習内容が話題として出てくる場面が見られ、児童の中に道徳の学習が根付いていると成果を感じた。
課題	●終末のまとめ段階において、主題をより深く、再考察（主発問に関する捉え など）させるような効果的な発問のあり方。 ●教材の捉え方によっては、児童の思考が限定されたり偏ったりすることもあるので、何を子どもたちに思考させたいかを明確にしていくこと。 ●発問の精選が必要。不要な時間をいかに子どもたちに還元できるかがタイムマネジメントにつながる。

	●生徒に対しての発問は、漠然であると考えを持ちづらいため、生徒が場面想起しやすい発問を行う必要がある。また、教師からの発問のみならず、イラストや写真、ICTを活用することで、更に生徒の主題に対する興味や関心が高まると考える。 ●振り返りの時に、児童生徒がいかに教材を通して感じたことを自分ごととして繋げたり広げたりすることができるか。その際にどのような発問がよいのかを自分自身ももっと考えなければと感じている。 ●すべての生徒を学びのスタート地点に立たせるために、こうした思考のベースとなる視点を与える発問は不可欠である。その一方で、授業終末の深める質問に時間を確保するためには、いかにして導入や展開前半でのタイムマネジメントを行うかについても考えていく必要がある。 ●常に、題材や課題によって、生徒に身近な経験として捉えられる発問になるかは、十分な検討が必要である。 ●道徳的価値を自分自身で見だし、実生活の中で活かすことのできる授業を学校全体で取り入れていく必要があると感じている。そのためにも、ロールプレイを効果的に取り入れた授業や、グループで話し合いながら考えを深めていくような協働的な学習についての知識を得る必要があると感じている。
	○自分ごととして捉えながら思考する学習活動 ・児童生徒の経験を想起させたり、疑問が生まれたりする発問により、本時のねらいとする道徳的価値と自分を見つめて授業をスタートすることができた。 ・教材の特性を生かした発問により、教材と経験・体験とを重ね合わせて自分ごととして考え、思考の深まりへと繋げることができた。 ●児童生徒の道徳的価値の理解を深めさせたり、広げさせたりするための終末部における発問 ●（児童生徒の主体的な姿や協働的な姿につながる）タイムマネジメント ・教材の内容やねらいに合わせた発問や説明、指示の厳選 ・教材の内容をスムーズに理解させるためのイラストや写真、ICTの活用 ●道徳科における体験的な学習のほか、総合的な学習の時間や特別活動等における体験活動の活用など、発問に資する活動

(2) 道徳科における評価の在り方

①児童生徒による自己評価と教師による評価について

成果	○児童生徒が互いの考えや気持ちを認め合おうとする場面が多く観られた。 ○各校の評価を交流できてよかった。 ○ワークシートが活用されていた。ワークシートの構成について話題になったことも成果だった。 ○道徳ノートには言葉にできない“もやもや”を図や記号で表す児童もいる。価値に対して子どもがどのように表現しようとしているかを見取ることができた。 ○chromebook の活用法を提示したことにより、教師や児童が自由に他者を評価する場を築くことができた。 ○ワークシートに記入することで、生徒自身は自分の考えが整理されていった過程が見える形になり、教師による見取りや評価がしやすい。 ○プリントや I C T 機器活用による児童生徒の記述によって、児童生徒自身も自分の考えを整理・思考することで自己評価へとつながっていくことが実践授業を通して感じられた。 ○（高橋教諭の授業から）ワークシートの最後に自己評価を設けることで生徒は1時間の自分の学びを振り返ることができていた。 ○（新谷教諭の授業から）スプレッドシートを用いた意見の書き込みは普段なかなか意見を言えない児童も参加できるため、有効だと感じました。また、「なるほどマーク」で相互評価できるようになっていることが「学びのしかけ」としてしっかり機能していた。 ○生徒の内面的な変容を見取るにはふり返しシートなどを毎時間記入させていくことがよいと思った。 ○学年で共通したワークシート（自己評価シート）を使い、その記録を蓄積していくことにより、生徒の思考の変化や成長の過程を知ることができた。高橋先生の授業で心情円を活用しているのを見て、生徒自身の考えを知るための方法は様々であると改めて感じた。 ○学習の振り返りをロイロノートで行い、提出することで児童が学習を振り返り自分の変容に気づく学習ができた。また、教師も提出された振り返りをもとにして評価がつけられるものとなった。
課題	●終末の自己評価の方法。選択式なのか記述式なのか、またはその両方なのか。児童生徒の道徳的が見とれる効果的な評価方法について。 ●道徳の振り返りにについても、今後検討していけるとよいのではないか。 ●chromebook の活用には、意図せず子どもたちの意見に制限をかけてしまう一面もあることがわかった。グループでの役割や用途、使用時間などを調整していくなど、より効果的に活用していくための課題が明確となった。 ●自己評価の中で、記述の欄を設けていなかったため、単純な ABC をつける評価になっていた。ワークシートの最後の自己評価は、記述にすることで生徒自身の言葉で書けるため良いと感じた。 ●自己評価を行う際、特に重要な問いについては短くてもいいので記述もさせることができると、生徒の学びをより正確に見取れるように感じた。

	●自己評価として「○・△」や「ABC」などが適切なのか。道徳は自己変容や内面について文書記述することが評価と考えるならば、やはり児童生徒にも最終的には自分の言葉（文章や発言）で自分の考えや思考の変化や広がり表現させることを目指し、発達段階に合わせて取り入れていくことが望ましいと考える。しかし、小学校低学年は書き方を教えなければ難しい。 ●相互評価を行う際、高い評価を得られなかった生徒が自己肯定感を下げてしまうことのないような配慮が必要だと感じた。 ●継続して生徒の道徳的価値観が変容していく姿を捉えていくのは大変である。 ●生徒の評価をどのように見取っていくか。蓄積したワークシートから、どのような点に着目し、生徒自身の変容を捉えていくのかの共通認識が必要である。自己評価の仕方についても学校としてよりよい方法を探っていく必要があると感じた。 ●学級、学年の取り組みでとどまってしまう、学校全体に広めるまでにはできていない。今後、研修部などと連携して広めていきたい。
	○ワークシート（ICT機器等を含む）からの評価（見取り） 学びの道筋がわかるワークシートに書かれた内容から「一面的な見方から多面的・多角的な見方へと発展させているか」と「道徳的価値の理解を自分自身とのかかわりの中で深めているか」について分析し評価へつなげることができた。 ○ワークシート（ICT機器等を含む）以外からの評価（見取り） 記述が苦手などの理由から記述量が少ない児童生徒の考えを表出するための全体やグループ、ペアでの児童生徒の発言を見取ることにより、児童生徒の道徳的理解を把握し、評価につなげることができた。 ●終末部における児童生徒の発達段階に合わせた毎時間の自己評価※の方法 ※①道徳的価値について理解する②自己を見つめる③物事を多面的・多角的に考える④自己（人間として）の生き方についての考えを深めるなどに基づいた質問項目を設定した選択式（A、B、Cなど）や記述式による毎時間の自己評価 ●児童生徒の自己肯定感に配慮した相互評価

(3) 保護者や地域の人材(教材)を活用した指導

成果	○ゲストティーチャーをお呼びして、LGBT の講演をしていただき、生徒が多様性について考えるきっかけとなった。 ○保護者に公開することができなかったが、通信で授業の様子や生徒の反応を伝えることができた。 ○学級通信で道德活動の内容に触れ児童の活動を伝えることで、家庭でも道德科の話ができるように、促すことができた。 ○コロナ禍であったが、人権教室を開催し地域の方と道德活動を共にすることができた。
課題	●各学年において、昨年度から学年 1 回程度の地域人材をお願いしてきたが、今年度はコロナと重なり、1 学年しか実施できなかった。 ●保護者や地域の人材（教材）を活用した授業は、十分にできていない状況であった。 ●外部講師の方の、授業における位置づけが難しい。講師としてお話中心なのか、「指導」要素を含んだ内容として実施していただくのか。位置づけによっては適切な人材選択が難しくなるのではないだろうか。 ●本時だけで完結することではないが、ICT 機器の活用や手紙など、授業前・授業後に保護者や地域材を活用することができると思った。 ●ZOOM などのオンラインを活用して外部人材とつなげる実践をすることができれば良かった。 ●地域教材については、今までに行われたもの（岩橋永遠さん）や、今後教材にできそうなものをみんなで実践しようと、意識して取り組まなければなかなか活用が広がらないのではないだろうか。 ●今年度の研究の中ではこうした側面にはあまり触れられていなかったように思った。 ●保護者や地域の人材（教材）を活用した指導は、子どもの心に響くとても価値あるものだと考えている。そういった人材を一から開拓していくのは時間を要するので、協力して下さる地域の人材（教材）一覧等があると依頼しやすい。 ●保護者を招いたり、地域の方を招いた道德活動をするには、感染対策としてまだまだ情勢的に厳しいと感じた。
○学級通信等の活用 ・授業の内容や学級・児童生徒の様子の紹介 ○ICT 機器等の活用 ・外部人材の活用の可能性の高まり ●地域の人材（教材） ・授業における位置付けや指導観の共有 ・北海道版道德教材「きたものがたり」の活用 ●地域の人材 ・外部講師バンクの登録に向けた地域人材の発掘	

《参考・引用文献》

- ・ 小学校学習指導要領解説 総則編 文部科学省
- ・ 中学校学習指導要領解説 総則編 文部科学省
- ・ 小学校学習指導要領 解説―特別の教科 道徳― 文部科学省
- ・ 中学校学習指導要領 解説―特別の教科 道徳― 文部科学省
- ・ 平成27年度小・中学校教育課程編成の手引 北海道教育庁学校教育局義務教育課
- ・ 平成28年度小・中学校教育課程編成の手引 北海道教育庁学校教育局義務教育課
- ・ 平成29年度小・中学校教育課程編成の手引 北海道教育庁学校教育局義務教育課
- ・ 平成30・31年度小・中学校教育課程編成の手引 北海道教育庁学校教育局義務教育課
- ・ 令和2年度 小・中学校教育課程編成の手引 北海道教育庁学校教育局義務教育課
- ・ 令和3年度 小・中学校教育課程編成の手引 北海道教育庁学校教育局義務教育課
- ・ 「特別の教科 道徳」の充実に向けて 北海道教育庁学校教育局義務教育課
- ・ 「特別の教科 道徳」の評価について 北海道教育庁学校教育局義務教育課
- ・ 新学習指導要領を踏まえた道徳キーワード 光村図書出版株式会社
- ・ 道徳科「深い学び」のための内容項目ハンドブック 日本文教出版
- ・ とうとくのひろば 日本文教出版
- ・ 平成22年度滝川市道徳教育推進事業 実践報告書 滝川市教育委員会
- ・ 平成23年度滝川市道徳教育推進事業 実践報告書 滝川市教育委員会
- ・ 平成24年度滝川市道徳教育推進事業 実践報告書 滝川市教育委員会
- ・ 平成25年度滝川市道徳教育推進事業 実践報告書 滝川市教育委員会
- ・ 平成26年度滝川市道徳教育推進事業 実践報告書 滝川市教育委員会
- ・ 平成27年度滝川市道徳教育推進事業 実践報告書 滝川市教育委員会
- ・ 平成28年度滝川市道徳教育推進事業 実践報告書 滝川市教育委員会
- ・ 平成29年度滝川市道徳教育推進事業 実践報告書 滝川市教育委員会
- ・ 平成30年度滝川市道徳教育推進事業 実践報告書 滝川市教育委員会
- ・ 令和 元年度滝川市道徳教育推進事業 実践報告書 滝川市教育委員会
- ・ 令和 2年度滝川市道徳教育推進事業 実践報告書 滝川市教育委員会



滝川市いじめ根絶シンボルマーク最優秀作品

令和３年度 滝川市道徳教育推進事業 実践報告書

「自分のよりよい生き方についての考えを深める道徳科」 ～主体的・協働的な学習を通して～

発 行 令和４年３月
 発行者 滝川市教育委員会・滝川市道徳教育研究会議
 所在地 〒073-8686 滝川市大町１丁目２番１５号
 滝川市教育委員会 教育総務課
 TEL 0125-28-8042 FAX 0125-24-1024